

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性評価システム 名古屋2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋市立大学滝子キャンパス	階数	地上5階建て
建設地	名古屋市 瑞穂区 瑞穂町字山の畑1-1外3号	構造	S造
用途地域	市街化区域/第一種住居地域/準防火地域/31m高度地区	平均居住人員	1,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年10月 予定	評価の実施日	2025年2月14日
敷地面積	20,566 m ²	作成者	
建築面積	7,750 m ²	確認日	2025年2月14日
延床面積	23,142 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆

①参照値: 100% (建設・修繕・更新・解体)

②建築物の取組み: 71% (運用・オンサイト・オフサイト)

③上記+②以外のオンサイト手法: 71%

④上記+オフサイト手法: 71%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 4.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.7

LR のスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>「室内環境の快適性」や「景観への配慮」なども含めた建物全体の環境品質の総合的な向上を図ります。</p> <p>この地域の歴史・自然遺産を継承し、魅力的で豊かな研究・学びの場となるキャンパスを創る。2各学部の専門性を高めるとともに、学際的な融合を促進し、総合大学のゆかりを在学中キャンパスを創る。3キャンパス全体を賑やかに活用し、実にあらゆる場所で活動が行われる多機能のキャンパスを創る。4地域に開き、地域と繋がりを、地域とともに未来を育む発展しつづけるキャンパスを創る。5国際社会との接点を持ち、多様な文化・思想への理解を深め、あらゆる人が活躍できるキャンパスを創る。</p> <p>上記の5点を無設計計画のコンセプトに掲げ、下記の「環境配慮事項」を実現します。</p>	<p>市立大学として市民に開くため、全方位からアクセスしやすい計画とします。</p> <p>周辺地域の方々が無難に訪れ、親しみやすい施設を目指します。</p>
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>軒の深いピロティ・Low-E複層ガラスによる外部熱負荷の低減とハイサイドライト・吹抜による採光を採入れた快適な室内環境を計画します。</p>	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <p>既存樹木を最大限残し、歴史的遺産「八高古墳」を尊重して計画します。</p> <p>自然と共生した建物とし、風景に調和した外装・屋根色彩とします。</p>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>BPI=0.87・BEI=0.48により「ZEB Ready」の計画とします。</p> <p>複数のハイサイドライトによる自然換気可能な計画とします。</p>	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>建物南面・西面は開口率を絞る、日射熱負荷を抑制するとともに周辺地域住民へのグレアに対しても配慮します。</p>
<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>リフレッシュ可能なラウンジ・テラスなどを分散配置させることで、学生の滞在しやすくなる「居場所」を点在させて計画します。</p>	
<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>寄贈煉瓦を壁として、敷地伐採木を内装として再利用します。</p>	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

名古屋市立大学滝子キャンパス

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.3
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.1	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.05	
2. 自然共生				4.4
Q3.1	生物環境の保全と創出	5.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	有	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.9
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 4.3
	
2. 自然共生	評価点 = 4.4
	
3. 循環型社会	評価点 = 3.9
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。